

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第 1282 号	氏名	吉岡 敬
論文審査担当者		主査教授	下川 功
		副査教授	上谷 雅孝
		副査教授	中尾 一彦
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、遺伝子治療における遺伝子導入効率に対する生体側の影響を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 プラスミド DNA/カチオン性リポソーム複合体を複数デザインし、四塩化炭素誘発肝炎マウスを用い、肝傷害の異なる時期における遺伝子導入効率を検討したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、肝炎の回復前期に導入効率が高いこと、コレステロールを結合させたリポソーム複合体（リポプレックス）の遺伝子導入効率が高いことを明らかにし、今後の遺伝子治療研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は遺伝子治療の基礎研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			